



## JAMCA ニュース

No.105

2020年4月1日

発行  
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会  
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31  
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066  
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988  
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

## 自動車整備士の将来

日産・自動車大学校 学長  
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

本廣 好枝



この号が出る頃はJAMCA各校で新入生を迎えている頃だと思います。原稿を書いている今もまだ4月入学の学生募集活動が続けていますが、大変な思いをして獲得した学生を無事最後まで育て世に送り出す、それが自動車大学校の使命と思っています。整備士不足、足りない上に更なる減少、高齢化、と繰り返し言われ続け、大変厳しい運営状況ですが、業界を盛り上げるため、大学校ができること、それは何でしょうか？

期待していた4月からの高等教育の修学支援制度も、現在の進捗から判断すれば整備士業界としてはさほど享受できていないように感じます。外的要因への期待は叶わないことも多いですが、我々としても魅力を訴える、不安を払拭する、といった働きかけは必要だと思っています。

良く聞く話として、整備士の仕事は将来減ってしまうのではないかと不安があります。その不安に対し皆が少し安心できるコミュニケーションの一例として、当校で次のような話をしています。

1. 日本の自動車保有台数は、アメリカ、中国に次いで世界第3位。

その保有台数は今も増えていきます。日本における整備需要はとて多い、と言えます。

2. 次に、地方におけるお客様のニーズの高まりへの期待です。地方においてはその財政難から公共交通機関を維持することが困難となっており、ライフラインとしての車の価値は益々高くなってきています。もちろん人口の減少もありますが、保有台数はそれほど下がっていないため一人当たりの保有台数はむしろ増加しています。つまり、個人のお客様のニーズは高まるのです。

3. 更に、都市部における法人ニーズの高まりです。都市部では車の移動のサービス化が進行し、車は個人所有からサービス提供者の法人に移行、法人が抱える車の整備需要が大幅に増加する、と言うものです。法人化により車の稼働率は個人に比べ上昇すると考えられるため、たとえ台数が減っても稼働時間と走行距離の伸びはそれを打ち消すものになるでしょう。法人は整備を確実にを行うため、整備需要は増加する、と考えられます。

この通りでないかもしれませんが、納得感があります。

また、販売店における整備士が

実際にお客様からとてもお褒めの言葉をいただくことがあります。担当整備士を頼りに車を乗り換えたり販売店が変わる、と言うケースもあります。そんなお客様の声を紹介し、仕事の魅力・やりがいを感じてもらうこと、も地道にできることだと思います。業界に対しては待遇改善を継続的に訴えつつ、決して条件面ばかりが仕事選びの基準でないことを少しでも示すことが出来ればと思います。

変わりゆく自動車産業の中で、整備士に求められる要件も変わっていくと思いますが、大学校に携わる身として、変わらず求められる技術力を備え、お客様を思いやる人間力のある人材を育てることに今後も力を注ぎたいと思います。

## CONTENTS

2面	ガソリンエンジンおよびディーゼルエンジンともに正味最高熱効率50%超を達成!
3面	クルマ大好き!、活躍!!女子!卒業生
4面・5面	進む自動車整備士の処遇改善各社の取り組みを追う
6面・7面	協会トピックス・地区通信
8面	私の教材活用・お知らせ・編集後記